

「農福連携」熱い視線



「さんさん山城」管理者の藤永さんの説明を受けながら、畑を見学する韓国の視察団メンバー（京田辺市興戸）

今年是他府県の議会や福祉施設、大学生らが来訪。海外からも視察があり、「農福連携」を進めるスイスの福祉事業所や、韓国KBSテレビの取材もあった。新免修施設長（43）は「えびいもなどの特産を栽培し、

韓国の視察団メンバー（京田辺市興戸）の説明を受けながら、畑を見学する様子。

障害者が農業で活躍 京田辺の「さんさん山城」

障害者が農業で活躍する「農福連携」を実践する京田辺市興戸の障害者就労支援事業所「さんさん山城」に、国内外から視察が相次いでいる。今年も福祉関係者や自治体など40組約300人が来訪した。事業所は「いろんなかたちで人とつながり、利用者の誇りも生まれる」と喜ぶ。

宇治商工会議所の役員と宇治市幹部による意見交換が19日、同市宇治の市商工会館で行われた。山本哲治会頭ら商議所役員25人が出席し、新たな企業誘致に向けた課題や、市の業務の態勢などに厳しい指摘も相次いだ。

改善を求める意見もあった。市市長は検討すると、宇治川大閘堤跡で3



山本市市長（中央）との意見交換に出席した市議員たち（左から）宇治市宇治・市

国内外40組300人視察 「利用者も誇りに」

地域とつながる取り組みが評価されているのでは」と話す。

今年13日に、日本の農林水産省にあたる韓国農林畜産食品部の職員らが視察した。韓国も農家の担い手不足が深刻で、今年から障害者や高齢者を雇用する農場への補助事業を導入した。同部係長の金慶恩さんは、さんさん山城の視察後、「地域のネットワークを作ることが大事。韓国に呼びびてワークショップをしたい」と話した。

さんさん山城管理者の藤永美さん（65）は「さんさん山城が注目されることで、障害者への理解も深まる。地域で支え合いながら、ともに過ごしていくことが、連携の広がりを見込んでいる。」と話し、国内外で農福連携の広がりを期待している。（大竹逸朗）

市で開かれた日本とベトナムの交流イベント「関西ベトナムフェアズ2018 in 堺」(10、11日)にブースを出した。地元産のお茶を振る舞い、宇治田原の魅力をアピールした。

イベントは、日本とベトナムの国交樹立45周年を記念し、ベトナム総領事館のある堺市

活動する内藤真理子さんの知人がベトナムに開連した仕事をしている縁で、「やんたん」も参加した。ブースで抹茶とケシ餅を販売し、煎茶やほ

ギコギコ・トントン広場くわくわく木工作り12月8日後1時半、生涯学習センター。来年の干支(えと)イノシシ・クリスマスツリー・登り人形のいずれかを作る。材料費300円。23人。30日までに波利さん090(5242) 8223に申し込む。

宇治

史跡探訪&紅葉ウォーク 22日前9時半、JR唐崎(湖西線) 駅集合。坂本城址、日吉大社、穴太衆積み石垣の小道など約8・5キロ。後3時ごろJR比叡山坂本駅で解散。1800円(弁当・お茶・拝観料ほか)。交通費は自己負担。30人。雨天決行。要予約。百田さん090(1452) 52264。

宇治茶文化講座

宇治茶文化講座 宇治茶再耕・再考・再訪 12月8日後2時、京都文教大14号館。府茶業会議所統括理事の岡久五郎さんの「50年の茶づくりを通して感じること」▽後3時、同大地域協働研究教育センター客員研究員の島津良子さんの「宇治製茶」製法の誕生と普及と一近世南山城茶の江戸販売を手がかりに。いずれも無料。各80人。同大ファイールドリラーチオフィス(25) 2630に申し込む。

城陽

医療講演会 28日後3時、文化パルク城陽。テーマは「がんで亡くならないようにするために」。体脂肪率や筋肉量、内臓脂肪などの測定も無料。宇治徳洲会病院地域医療連携室(25) 2871。

八幡

福祉高齢者のついで12月2日前10時半、北部コミセン(55) 1000

八幡

自動車文庫 21日後2時10分以下奈良今里(有都交流センター)、2時50分に川口(まつむし児童公園)、3時半に有都